

令和8年度 施政方針

下平市長が令和8年第2回志布志市議会定例会で示した「施政方針」を掲載します。

先般の第1回定例会におきまして、誰一人取り残さないまちづくりを原点にしながら、「くらしを守る、未来を育てる」「港が動く、人が動く、志布志市が動く」の2つをキーワードに、暮らしと経済の両面で本市の持続可能な発展に向けて取り組むため、具体的に11本の政策の柱により取り組んでまいります。

この11本の政策の柱の実現に向けて、すぐに取り組める施策につきましましては、補正予算案として御提案しております。今後の実施に向けて調査・検討を要する施策、市民や事業者の皆様の御協力を必要とする施策、実現までに多くの調整を要する施策など課題はあるところがございますが、それぞれの施策がスピード感を持って円滑に実施されるよう庁内横断的に連携し、情報の分析と共有に努め、全課で総合かつ計画的に取り組

んでまいります。

また、本市の将来都市像である「未来へ躍動する創造都市 志布志」の実現に向けて策定した、本市の最上位の計画である第2次総合振興計画については、本年度で終期を迎えます。将来都市像を達成するための具体的な施策を体系化した後期基本計画の推進について、全庁を挙げてラストスパートをかけてまいります。

物価高が継続し、人口減少による人手不足、気候変動、多文化共生社会の構築などさまざまな市政の課題が増えていく中においても、市民や市内の事業者の皆さま、その一人一人が将来にわたって幸せを実感できるまち、多くの方が志布志市に誇りと愛着を持ち、「行ってみたいまち・住んでみたいまち・住んでよかったまち」と思える、魅力的で持続可能なまちを目指し、全力で市政運営に取り

組んでまいります。

平成18年1月1日に3町が合併し誕生した本市は、本年1月に20年を迎え、人と言うと「ハタチの日」を迎えたところです。これまでの志布志市の持続的な発展に御尽力いただいた先人の皆さま方はもとより、市議会議員の皆さま、地域において御尽力をいただいている市民の皆さまに改めて深く感謝申し上げますとともに、これまでの成長を振り返り、3つの地域が融合し高めあう、成熟したまちへと新たな一歩を踏み出すときを迎えています。

本市が持続的に発展し続けるために、SDGsの考え方にあるとおり経済・社会・環境の調和が重要であり、本市においても、「経済」面での豊かさを追求めるだけではなく、人々が交流する社会面や、人々を取り巻く環境面での「暮らし」の豊かさを、共に追求してま

いります。

持続可能なまちづくりを進める一方で、令和8年3月に策定した第3期まち・ひと・しごと創生人口ビジョンでは、令和52年の総人口が1万1千人台まで減少すると推計しており、人口減少傾向が続くことを意識したまちづくりが必要となっております。ビジョンでは、人口減少が続く中で、本市が今後目指すべき方向性についても整理しており、進学や就職を機に市外へ転出する若年層を含め、市外から若者や女性の転入、いわゆる社会増への対策が最重要であり、具体的には若者にとって魅力的な職場や雇用を創出し、シビックプライドの醸成と合わせたUターン支援、まちの魅力づくりなどの取組が求められており、重点的に取り組んでまいります。

また、人口減少が進む中であっても市民の皆さまの生活利便性を

維持していくためには、中心市街地とそれぞれの地域の活性化に努めながら、生活に必要なサービス機能と居住の集約を誘導し、それをつなぐ交通網を整備するという「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指してまいります。

中東情勢のように不確実性が高い新たな課題や、人口減少の継続のようにこれまでに経験したことがない地域課題が増えていく今後は、実現したい未来を将来世代の立場に立って描き、その実現のために今必要とされる取組やアイデアを数多く生み出し、実行していくという考え方が重要でありま

す。

現在、令和9年度から10年間の第3次総合計画の策定を進めているところでございます。まずは、市民の皆さまの思いや経済の現状を調査・分析し、本市の10年後の目指すべき将来都市像をしっかりと設定した上で、その実現に必要な政策や施策を検討・実行していくために、まちづくりを自分ごと化できる地元の人材と共に計画を策定し、まちづくりを自走化する仕組みを構築してまいります。

地方創生の推進につきましましては、令和7年12月に「強い経済」「豊かな生活環境」選ばれる地方」の3つを目標にした国の総合戦略が策定されました。本市においても、令和9年度からの第3期総合戦略の策定を進めておりますが、

まちづくりを主体的に進める地元人材の育成、都市部の若者を巻き込む形での関係人口の創出、港を中心とした産業の実態調査などに取り組むことで、自分たちのまちに誇りや愛着を持つ人を増やし、市民の皆さまの幸福度を高め、経済が成長するサイクルの構築を進めてまいります。そのサイクルにより、市民自らがまちづくりを主導する持続可能な志布志市を目指してまいります。

さらに、市民の皆さまとの協働はもとより、企業の皆さまとの積極的な共創や、本市に想いを寄せる方々と連携を図るなど、多様なつながりを生かし、地方創生を推進してまいります。

以上のような市政運営を進めていくにあたっては、市民目線で市民の立場に立ち、顧客満足度志向・オンラインワン・成果主義・先手管理の4つの行政経営指針により、

市民ニーズへ迅速に対応しつつ行政運営の効率化に努めてまいります。

職員が市民の皆さまへ対応する際は、挨拶・態度・笑顔・対応・一生懸命・言葉・徳を職員一人一人が意識するよう、その頭文字を「あ・た・え・た・い・こ・と」として周知させております。特に「言葉」を大切にしながら、引き続き接遇を徹底してまいります。また、課題が発生した場合はできる限り現場へ出向き、市民の皆さまの声を真摯に受け止め、対応することができるよう現場主義の徹底を図ってまいります。

職員一人一人が誇りと自覚を持ち、高い志を掲げて課題解決に全力で取り組めるよう、私自身が先頭に立って、市職員の可能性を最大限に引き出し、さまざまな課題に挑戦してまいります。

※原文の一部を抜粋し、掲載しています。 なお、原文はホームページで公開しています。